

行雲流水

No.216 令和4年5月27日発行

己^{おのれ}の欲^{ほっ}せざる^{ところ}所、人^{ひと}に施^{ほどこす}すこと勿^なれ

校長 寒河江 正人

もうじき6月。今年度も2ヶ月が過ぎようとしています。

さて今日は、生徒諸君にこんなお話をしようかと思えます。

これまで60年近く生きてきて、余計な一言で、人を傷つけたり、悲しませたりしたことは、一度や二度ではありません。

身勝手な仕草や態度で、相手にいやな思いをさせたことも、一度や二度ではありません。

「いや悪気はなかったんだ。」とか、「いやそれは誤解だ。」なんて言っても、もう遅い。自分本位の「言い逃れの言い訳」にしかない。

相手は、不快な思いをし、深く傷つき、悲しみ、もうとりかえしがつかない。

生徒諸君は、どうですか？

みなさんは、立派なので、私のような「愚かなしくじり」は、ないかもしれませんが。

「論語」の中に「己の欲せざる所、人の施すこと勿れ」という一節があります。

「自分がされていやなことは、人にしてはならないよ。」という「孔子の教え」です。

そういわれた弟子は、すかさず「はい、心がけます。」と答えました。

しかし、孔子は、「おまえには、そう簡単にできることではない。」と返したそうです。

それは、孔子自身が「私にだって、それを成し遂げるのは、なかなか難しいのだよ。」

「そんなに簡単に『心がけます。』なんて言うなよ。」と言いたかったのかもしれませんが。

私たちの「ストレス」は、そのほとんどが「人間関係」に起因することだそうです。

私たち人間は悲しいかな、失敗とでたらめ、しくじりを繰り返す不完全な生き物です。

しかしもう一方で、私たち人間には「しくじりを教訓として学び、トラブルを未然に回避する知恵」、さらには「トラブルが生じて、誠実に解決する知恵」があるのです。

孔子が弟子たちに説いた「このシンプルな原則（教え）を守ること」がいかに大切か。

本校に集い、学ぶ仲間、常にこれを「座右の銘」として、「自分磨き」に精励しましょう。